



平成30年7月19日

**西の子**

学校だより 8月号  
三島市立西小学校

(活動の様子は三島市立西小学校のブログで御覧いただけます。)

現在202053人

文責 校長 土屋 晃

## 【夏休み7/25～8/28まで35日間】

35日間の夏休みです。夏休みだからこそ、できることにぜひ挑戦してください。具体的には自分で計画を立てて生活してみることです。読書や漢字ドリルや計算ドリルなど今まで習ったことを自分の力でもう一度やってみるということです。1日中やろうというわけではありません。自分の決めた1時間、2時間で良いと思います。「自分で決めて、できた。」という体験が大事です。

そして、お盆や夏祭りなど親戚が集まる機会も多いと思います。その為の里帰りなど旅行もあると思います。どれも夏休みだからできることです。4年生以上ならただ覚える都道府県名ではなく、またぐ都道府県の様子をしっかりと覚えてくるのもよいでしょう。6年生なら教科書に出ていた史跡を見てくるのも良い勉強になります。

「学校で習った勉強が生活の中にある。」そんな思いを持ってたら有意義な夏休みになると思います。健康やケガに留意されて、充実した夏休みをお迎えください。

## 【熱中症対策について】

熱中症についてその危険性がニュース等でも話題になっており、本校においても下記のような対策をとり、予防に努めます。併せて、ご家庭でも下記の事項に心掛けてくださいますようお願いいたします。

### 【学校での熱中症予防対策】

- 1 子どもの健康状態をしっかり把握し、体力が弱っていたり体調が悪かったりする場合は、保健室で様子を見て、保護者へ引き取りの連絡をします。
- 2 こまめに水分補給や休憩をとらせるように心がけます。
- 3 運動時は、休憩・水分補給・活動変更等の対応を考慮します。
- 4 教室の換気に気を配り、設置されている扇風機を稼働させ、室温の上昇に配慮します。
- 5 下校後は、家庭等涼しい場所で過ごすように指導します。
- 6 運動場に適宜散水し、少しでも気温の上昇に配慮します。

### 【家庭での熱中症予防対策】

- 1 登校前の健康観察をしっかり行い、お子様の健康状態の把握に努めてください。もし、疲労、発熱、下痢など体調不良のときは、無理をさせないように配慮してください。

- 2 水分補給のため、飲み物（麦茶類）を十分に持たせてください。飲む量は個人差があるので、不足することのないように持たせてください。
- 3 必ず汗ふきタオル等を持たせてください。また、冷汗グッズなど必要に応じてご用意ください。  
※持ち物には記名をお願いします。毎年、持ち主不明の落とし物があり、増えています。
- 4 睡眠不足は体調不良の原因になります。十分な睡眠がとれるようご配慮ください。

## 【夏休み中の熱中症予防対策】

- 1 三島市に熱中症指数「危険」（気象庁ホームページ等でご確認ください）が出ている場合、運動場の使用は中止します。涼しい室内で過ごすようにしてください。「**嚴重警戒**」の場合も、外出時は炎天下を避け、激しい運動は止めてください。
- 2 積極的に休息をとり、適宜水分等をとりましょう。室内でも、エアコン等を使用して室温の上昇に注意しましょう。

## 【夏休み学校閉庁日】

働き改革の一貫として8/16（木） 8/17（金）は市内の小中学校は一斉に閉庁日となります。この両日は学校の窓口業務及び電話対応ができませんのでご了承ください。なお、緊急の場合には三島市教育委員会 学校教育課 指導係（983-2671）にご連絡くださいますようお願いいたします。

## 【生き物の飼育＝情操教育】

平成17年頃のことです。それまで飼っていたウサギが寿命で亡くなったので、まだ赤ちゃんだったミルクとチョコを買ってきたそうです。それから13年の年月が流れ、チョコやミルクもずいぶん歳を取りました。子どもたちは大切に世話をし、低学年はチョコやミルクを抱ける機会を楽しみにしていました。また、遠くの学校に転校していった友だちも、三島に立ち寄ることがあれば、チョコやミルクのことをいつも気にして会いに来てくれました。チョコやミルクはそこにいるだけで子どもたちの癒やしになっていました。



ありし日のミルク

ミルクの死は別れのつらさ、寂しさを感じさせます。関わりが深ければ深いほどその思いは強く、深いものになります。また、一緒にいられる時間も有限であることを強く意識させてくれます。しかし、時代はいつしか小動物を全国の小学校で飼うことを止める方向に動いています。小鳥やニワトリなどは鳥インフルエンザの流行を境に飼うことそのものが危険となりました。ウサギなどの小動物も休日の世話の問題だけでなく、子どもによってはアレルギーなどによって喘息を引き起こす原因になることもあります。

チョコやミルクが子どもたちの情操教育に与えた影響は計り知れませんが、これからは学校では小動物の飼育はしません。

ご理解のほどよろしくお願いいたします。